



戸惑う患者から 賢い患者になるための道案内

③子どもの受診：受診前の準備から診察まで

佐久大学・看護学部 看護学科 教授
橋本佳美

今回から2回、子どもの受診について考えてみたいと思います。

小さなお子様が病気になると、ご家族の皆様はとて心配しますね。まだ自分で体調を説明できないお子様は、ご家族の方の付き添いと情報が必要です。

今回は、比較的小さいお子様の受診に付き添うお母様やご家族が何をしたら良いのか説明します。

【受診時の付き添い】

受診時に病院にお子様を連れてこられる方は、お子様の様子を一番よく知っている方（お母様）が最適です。でも、お母様が働いている場合、急に休めないこともありますね。その場合、お子様の経過や様子、ふだん飲んでいるお薬の名前、食べ物や薬剤にアレルギーがある場合はそのこともメモして、付き添う方に渡してください。

【受診時に用意する物】

- ①母子手帳、保険証
- ②熱のある子どもは、熱の経過などを書いたメモ（いつから発熱し、熱の推移はどうなっているか）
- ③もし下痢などの異常な便が出たら、その便をビニール袋などに入れてもっていくこと
- ④他の病院でもらったお薬の名前を書いた紙
- ⑤哺乳びんやお気に入りのおもちゃ

【待合室での注意】

- ①診察直前に食べ物や飲み物を与えないようにしましょう。お口の中がよく見えなかったり、喉の診察の時に嘔吐してしまうことがあります。診察まで待ち時間があるようでしたら、授乳しても良いかどうか受付で聞いてください。
- ②おしっこがしたくなったら看護師にお知らせください。尿の検査が必要なことがあります。
- ③吐いた、おなかが痛い、ゼイゼイと苦しい、ぐったりしているといった症状があれば、申し出てください。順番をはやめて診察を受ける必要があるかもしれません。

【診察室で】 診察の時、

- ①一番気になる症状は何か

- ②その症状はいつから出てきたか
- ③その他の気になる症状はあるか
- ④家族に同じような症状がなかったか、周囲（例えば保育園など）で流行している病気はないかなどを尋ねられます。メモしておくことで緊張せずに的確に症状を伝えることができます。また、咳や発疹のようすを携帯電話に録音、または撮影しておくことで状態の変化なども伝えやすいです。

乳幼児期のお子様の場合、母子手帳を活用すると便利です。例えば、生まれた時の体重や在胎週数などがとても重要な情報になることがあります。また、今までにした病気、薬や食べ物で発疹が出たことがある等の情報をふだんから書き込むようにしましょう。いざというときあわてずにすみます。

【ふだんの生活の中での準備】

小さな子どもたちはおとなよりも感染症にかかりやすいものです。そこで、受診が必要になる前にいくつか準備しておくことで心強いです。

- ①ママ友は大切…友だちや知り合いのネットワークを作る
いつどんなタイミングで受診すべきかなど、育児書などに載っていない情報は、親にとって悩みの種です。経験者の話しをいくつか聞いておくと安心です。また、どこを受診すればいいかなどの情報は、近所の方やママ友から得ておきましょう。
- ②救急対応について…夜間のケガや急病、保護者の方々が対処に戸惑う時や、医療機関を受診すべきかどうか判断が難しい時は、小児救急電話相談#8000で相談を受け付けています。アナログ回線、IP電話の方は、長野県の場合0263-34-8000に電話してください。応急対処の方法や受診の要否等について助言が受けられます。

子育ては一家族だけではできません。小さなお子様をお持ちのご家族の方々には、ふだんから隣近所とのお付き合いをしておくことをお勧めします。NHKの朝のドラマ「まっさん」で、エリーがこのように話していました。「私は日本一おせっかいなおばさんになる」…子どもとその家族にとって『おせっかいなおばさん』の存在は重要だと思います。